大阪日々新聞社 第十七号

東京下谷數寄屋町分曳松田子兵衛惣領娘あきゝ庚午年
廿一才あるが貌みくらぬ大新近明治八年五月の頃より行迚い十ヶ月ふる
程児を次者コヒ出行しよ〳〵帰り来らぬ親心も落つゝ彼方樂を
尋迷ひ渚の路畠の魚ちもろ池の端あゝ叢ゆ子の帰えるを聞き
飛立つもゝろう西おやひ
喜び抱き我家へ
かゝるおもゝの行ヒハ猶
もんぞ是ハ家まえ
心ちゝぬ女あて奉ゝ中ゆ主人の
赤子を水ゆ入れ邪ゆ
眼ゆ出され又近所の小母を風呂へ入れ
ゆ着物を奪ひ躾の置ざり事ゆらわれ
親ゆ兵ヒハ頭ゆ中ゆ此始末実ゆ
七本いとの先をふさんと最寄の評定報知の紙上六百七十三号へ記ゝ

東京 岡本豊彦 彫 摺